



平成30年10月31日

とべだより

11月号

横浜市立戸部小学校

心の大地を耕す

学校長 柳澤 潤



読書の秋です。人は、素敵な本との出会いを求めています。そして、読書の習慣を身に付けることは、心豊かな人生を拓くことにつながります。

本校では、10月15日から26日までを読書週間とし、様々な取り組みをしました。一人2冊の図書貸し出しも、はじめました。読書集会では、図書委員による図書室の使い方クイズや、図書室でミニブームになっている本のクイズがありました。人気の本として、低学年は「11ぴきのねこ」シリーズ、中学年は「世界のともだち」シリーズ、高学年は「精霊の守り人」が、紹介されました。また、学校司書の先生によるストーリーテリング「ヤギとコオロギ（イタリアの昔話）」がありました。全校児童が寄り集まって、先生の語りに聞き入りました。

読書集会で名前が挙がった本は、たちまち図書室で話題の本になります。本を借りたくて、司書の先生にすぐ声がかかります。子どもたちは、なんでも聞いてきます。中には、「家で料理を作ってあげたいけど」との相談や、「家族にプレゼントを作りたいけどいい本はないかな」との質問も。さらに、捕まえた虫やカエルを大事にもってきて、「何を食べるのかな」とか、「飼ってお世話をしたいけれど、どうすれば」との質問もあります。いずれの質問にも、必死になって質問に見合う本や図鑑を探し、紹介してあげるそうです。

この期間は、図書ボランティアの皆様のご協力で、2校時のあとの「中休みおはなし会」もありました。子どもたちが楽しみにしているので私も参加してみると、その日は大型絵本で「はらぺこあおむし」を読み聞かせてくれていました。手作りの青虫を動かしながらページがめくられます。知っているお話でも、わくわくしてくるので不思議です。続いて「三びきのこぶた」です。これも、定番のお話なのに、語り手の調子に合わせて思わず声が出ます。次の日は、「ぐりとぐら」。途中で歌も入れてくださり、リズムよく物語が進みました。読み継がれているお話は、何度聞いても心地よく、そして、語り手の皆さんの「声」が気持ちよく響くのです。戸部小では、現在49名のボランティアさんに携わっていただいています。図書室の装飾も手掛けてくださり、秋の季節感が溢れています。「無理なく、楽しく、子どもたちのために」との思いで、応援して下さっています。子どもが本と出会う、豊かな環境がここにあります。

今年度学校では、横浜市中心図書館とも連携して、多くの本を運搬して用意することもしています。国語の教科書で動物の物語を扱う時に、同じように動物シリーズで、関連の本をそろえたりします。総合や教科で調べ物をするときは、児童数分の資料を用意することもあります。このように、多くの人の協力を得て、子どもたちが十分本に触れることができるよう、工夫と努力をしています。一昨年度本校児童が借りた本は、総数で6千冊。昨年度は8千冊。そして、今年度は、1万冊を越えそうです。

人は皆、心に可能性の大地をもっています。読書によって心は耕され、豊かな実りをもたらします。子ども一人ひとりが読書の習慣を身に付け、素敵な本と出会えることを願っています。

文化の秋、戸部小は、とべコン（とべとべコンサート）が11月22日と迫ってきました。学習に読書に、充実の活動をつくってまいります。今月も、どうぞよろしくお祈りします。